

<開催報告>

地域・社会課題解決カンファレンス～地域密着型エコシステムの創出に向けて～

九州経済産業局
総務企画部 企画調査課

地域・社会課題が多様化・複雑化し、自治体単独での対応が困難となる中、地域で持続的に課題解決を行うためには、様々な関係者の連携が重要です。本カンファレンスでは、全4回にわたり、地域・社会課題解決と収益性確保の両立を目指す「ローカル・ゼブラ企業」や中間支援団体をゲストスピーカーとして招聘し、会場参加者も交えた対話を行うことで、地域・社会課題解決の担い手を支援するエコシステムの創出に向けた方策を模索します。

第2回は、東シナ海の小さな島ブランド株式会社代表取締役の山下賢太氏を講師に招き、鹿児島市内の会場での対面開催を実施しました。

第2回 2024年10月16日（水）鹿児島 「地域・社会課題を成長のエンジンに転換する事業づくり」

[双方向対話型カンファレンス／対面開催]

■ テーマに関する実践事例の話題提供 (東シナ海の小さな島ブランド株式会社 代表取締役 山下賢太氏)

- ・ 甑島を含む島嶼部ならではの課題
- ・ 事業内容、収益をあげる工夫
- ・ 限界の先をデザインする
- ・ 島の日常を取り戻す、島民の暮らしを観光が応援する
- ・ 鹿児島県の有人離島をフィールドにしたエコシステム
(鹿児島県離島文化経済圏) の取り組みと展望



■ 会場全体でのディスカッション

講師：山下賢太氏、ファシリテーター：株式会社エーゼログループ

- ・ 「課題解決」と「収益性」をテーマにディスカッション
- ・ ローカルゼブラへの支援について
- ・ 総括

◆参加者からのコメント等（現地参加17名）

- 具体的な事例を当事者の生の声で聞くことができ、理解が深まった。
- 課題を単体でみるのではなく、“面でみる”ことが重要という考えが大変勉強になりました。また、それを甑島のみならず、沖永良部、屋久島など他でも横展開されていて素晴らしいと思いました。本日は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。
- 山下さんの人間性も感じられて、とても心を揺さぶられました！
- 単純な地域貢献という話ではなく、地域における課題解決とはどのように行うのか、手段追求ではなく、いかに目的意識を持つべきか考えるきっかけとなった。
- ローカルゼブラという言葉を意識してきたわけではないが、社会性と経済性の両立は目指してきた。今後もっと高めたい。
- 地域を理解し、課題解決に取り組むうえで、地域のストーリー性を大切にすることが、結局、理にかなっていると改めて学ぶことができ、興味をもっと持つことができました。
- ローカルゼブラについて解像度が上がり、何か動いてみたいと思えた。
- ユーモアは大事。人材や労働力ではなく、目的を伝える、やビジョンの共有を大事にしたい。
- 山下さんの熱量に圧倒された。山下さんの原点である「ふるさとの風景を残す」という思いを自分に置きかえて、今一度考えてみたい。
- とても良かったです。こういった内容が鹿児島で聞けることはありがたいです。

※原文のまま記載

island company.

2012年4月 創業

本 社 鹿児島県 上甑島

39歳以下 94%

サテライト 種子島 / 沖永良部島

男女比 3:7

合併会社：SANROKU Inc. [屋久島]

U/I ターン比 3:7

スタッフ数 1 → 15名

管理・運営拠点 19拠点

HITOLAH

鹿児島県離島文化経済圏とは

鹿児島県離島に暮らす人々と民間・行政などあらゆる垣根を超えたパートナーシップによって地域課題を価値に変えていく実践型コミュニティ。

境界線を創造せよ

HITOLAH

鹿児島県離島文化経済圏
＝小さな島々をつなぐ共同体

有人離島 28/30 島

人口 約 15万人

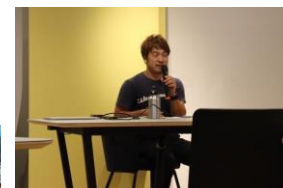
※ 149,600人

市町村や島単位ではない新たな自治のカたち

出所:東シナ海の小さな島ブランド株式会社山下氏の講演資料をもとに作成



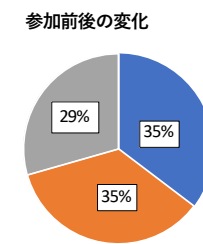
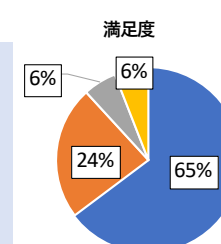
<開催挨拶>



<実践事例の話題提供>



<会場全体でのディスカッション>



Q.本カンファレンスを通じて、地域・社会課題解決と収益性確保の両立を目指す企業(ローカル・ゼブラ企業)としての取組を進めていきたいとなりましたか? そういった企業を支援するエコシステムへの参加を考えてみたくなりましたか?